

猿新聞

編集・発行
山村 準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

防護柵の管理点検

防護柵は、設置するときよりも、保守管理に大きな問題点があるといわれています。

金属ネット柵は、管理不要と勘違いされている方が多くおられます。どのような柵であつても万能ではありません。見回り・点検は必要です。

維持管理が不足のため十分な効果が得られていない事例も報告されています。

中山間地域では、耕地を一筆毎に囲うより、経済的であり維持管理も効率的であるというところで、集落を大規模に囲う方法をとりにくい地域が多いと思います。

たしかに、コストは抑さえられますが、維持管理に大きな落とし穴があるように思います。大きな集団（仲間）では、「オレがぬけたかたて誰かがやってくれるやろ。」という人が必ず出てきま



シカは、柵を飛び越えようと。くぐりぬげようと。彼らは彼らなりに、あの手この手で学習しています。柵も、問題に合わせて改良が必要です。

「柵は立てて「完成」ではありません」。

ワイヤーメッシュは、1枚としての強度は高いのですが、鋼線は1本1本はもろいところもあります。局所的な力が加われば溶接も剥がれてしまいます。維持管理には注意が必要です。縦のメッシュが1本外れてしまうと「うり坊」などは通り抜けできますし、成獣も破壊しやすくなります。チェック・メンテナンスには細心の注意が必要です。

写真上||今年1月頃設置した柵。このまま放置しておく、今までの努力が水泡に帰します。7月17日矢川で撮影。

す。ましてや、高齢化の進む現状では...

集落で相談しながら「月」程度のローテーションを定めて維持管理に当たる。という方法で解決出来ると思います。

山の動物たちは、日頃使っている道に壁のような柵が急に出現したのだから一時は驚いたと思いますが、すでにルートを変えて移動していると思います。

イノシシは、柵を鼻で押ししたり、持ち上げたり。

矢川、安部田を股にかけ居着いているハナレの仕業だと思えます。

写真右||ニンジン全滅！写真左||植えたばかりのサツマイモ引っこ抜く。



6月26日から28日にかけて、矢川ではトウモロコシやニンジン、植えたばかりのサツマイモなどがサルに被害を受けています。

相当人慣れしている様で、全て民家のすぐそばの畑で被害を受けています。これは3~4年前から

また！ヤラレタ！

被害を受けています。これは3~4年前から

獣保護管理計画では獣害を抑え切れていないというのが現状で、政府は、保護から管理へと転換し、法案、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」を3月に閣議決定され、現在開かれていた第186回通常国会に提出されて衆議院環境委員会で審議が行われました。

その環境委員会の4月11日の回で、篠原孝議員（民主党・無所属クラブ）、続いて百瀬智之議員（日本維新の会）それぞれ質問のなかで、シカ対策の現状を踏まえ、「オオカミ復活についての真剣な議論を、議院が率先して始めるべき時ではないか」という趣旨の提言をしています。

（一般社団法人日本オオカミ協同会 JWA HPより抜粋）
国会で、オオカミ復活問題が審議、語られたのは国会史上初めてのことだと思えます。これまで深刻化しているのです。オオカミ復活問題は「オオカミ」と実行出来るような問題ではありません。国民の合意形成には時間がかかることが予想されます。専門家を交えた国民的な議論が必要です。



第186回通常国会 オオカミ復活提言

増加の勢いが止まらない野生鳥獣による被害の拡大を抑え込むため、政府も様々な対策を講じていますが、従来の特定鳥



M・D 4期生誕生

「モンキー」ドッグ4期生誕生！
今回の4期生M・D候補犬は、3月25日の合同訓練を最後に、以降それぞれの自宅周辺での呼び戻しなど飼主と

候補犬との自主訓練を課され、7月8日の認定試験に臨みました。結果、認定試験参加犬5頭とも合格に至り、それぞれのM・Dの特性によって、当面「ロングリード」などの条件付きとなりませんが、M・Dとしての今後の活躍が期待されます。

なお、赤目町一ノ井と矢川地区においては、元野良犬の「シロウ」がM・D認定を受け、1期生の団十朗とともに散歩を兼ねたパトロールと追払い活動に励みます。応援よろしく！



認定試験前の説明風景

4期生の所在地は、名張市赤目町一ノ井と夏秋の2頭と宇陀市3頭です。MDC 島山 ひさ子

サルの出没状況 名張A・B群

殆どのサル達は採食活動は涼しい朝夕の時間帯に集中して、気温があがる10時頃になると、活動（採食や移動）をやめ比較的涼しいスギ林や雑木林で気温の下がるのを待ちます。

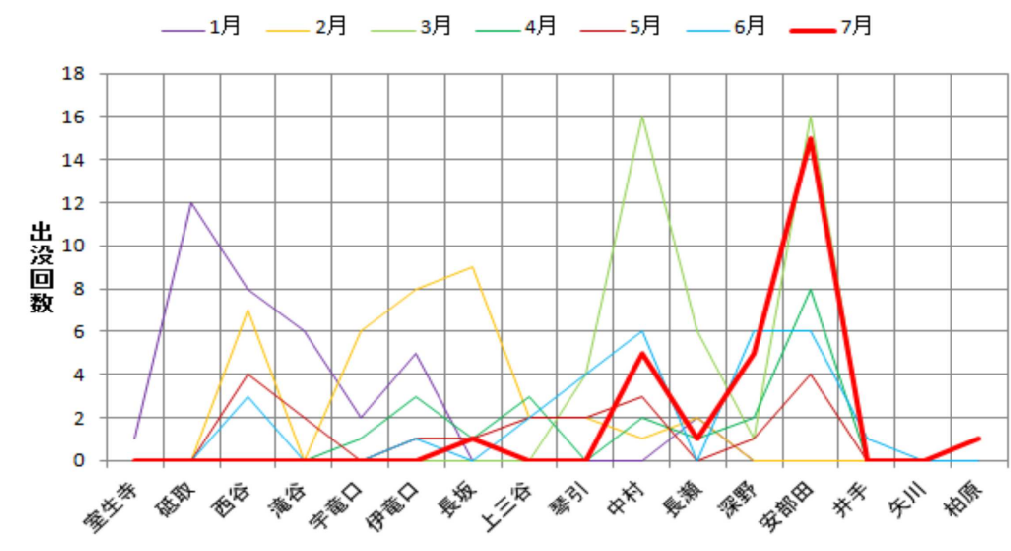
夏場のかげらの活動は朝夕の涼しい時間帯になっているようです。生活環境を変えることが出来ないかからの、究極のエコ生活なのかも知れません。

B群は平坦部を避け、国道165号線より北側（山側）を遊動しているのも暑さ対策かも知れません。

指南員報告
7月のサル動向
A群は、6月の両ダムを中心の遊動から7月に入って集落内の畑作物を狙った遊動に変わってきました。布生、長瀬、下比奈知、上比奈知等で、畑作物に相当被害があった模様です。

B群は、理由は不明ですが、宇陀川の左岸側、165号線の北西部の集落を遊動していました。したがって、坂之下、鹿高、深野等で畑作物の被害が、発生しています。

名張B群出沒状況



名張A群出沒状況

